

サ ツ カ バ カ ナ

田
中
浩
之

主な登場人物

ダブルステップ田中（田中） 殺人鬼

関真琴（せきまこと）（真琴） 老人

坂本和奏（さかもとわか）（和奏） ケースワーカー

彼女

おじさん

伊藤

クラスメイトたち

先生

上司

白衣を着た女

医者

カタコトの女

受付

女装男

店員

スターバックスの店員

白ウサギ

・ 第一話

田中 このテキストがどのように扱われるのか読まれているのかそもそもその目論見通り演劇として上演されるのか、それとも書いたそばからいつものように「だめだこりゃ」とデスクトップのゴミ箱につっこまれていくかもしれない。どっかからダウンロードしたエロ画像や聞き飽きた音楽データといった海の飛沫でゴミ箱はつゆだくで、その中に放り込まれず濡れぬふにやふにやになっても完全削除されるまではこのテキストは『サッカバカナ』と題されているはずで「サッカバカナ」が何かといえれば wikipedia の『密教』のページに出てくる言葉で、『インド密教の歴史』という節の『密教以前』と

いう項に、『ブツダによって説かれた経典を唱えることで真実語 (Sacca-vacana) によって祝福するという習慣が存在する』という、これ、この『真実語』のあとにくつついた、なんて読むねん『Sacca-vacana (ほにゃらら〜)』を勝手にローマ字読みして『さっかばかな』で、そう読んでみて「作家、馬鹿な」「馬鹿な作家」を連想して、でも馬鹿な作家に真実の言葉が吐けるのか？作家は嘘を吐くのが仕事で、その嘘は熟練すればするほど上手になるはずで、リアルではあってもデジタルというか雑音やヒトが感覚できないものはカットされていくのだから、真実というものがそもそもヒトに感覚できさるものかという問題もあって、うまく賢く嘘をつくよりは下手で拙いバレバレの嘘をつくほうが雑音の多さで真実に近いかもしれないという可能性を残しながら、でも出来がいいフィクションに心を動かされるという感動は十分真実である気がするし、そもそも宗教においての悟りなんてもんは大なり小なり生活を切り捨てるというデジタルな側面もあって、

真琴 俺さあ、突然割って入る一人の老人（関真琴）。

真琴 俺、ユーチューバーになるわ。

・ 第二話

金属バットで素振りを始める田中。

田中 死ぬ、死ぬ、死ぬ、死ぬ、

（ポロポロに疲れるまで続けて）疲れた。

田中 （疲弊しながら）爽やかな汗。やっぱり適度な運動は精

神衛生上大事よね。誰かを殺したいなんてどうかしてたぜ。

田中は彼女に金属バットを持たせる。

田中 殺してください。

腕き頭を差し出す。

彼女 え、

田中 一思いに、がつんと、

彼女 いやいや、

田中 お慈悲を、

彼女 え？

田中 切腹の介錯みたいなんやから。

彼女 いやいやわからん。

田中 じゃんけんする？

彼女 は？

田中 はい、じゃんけん、

彼女 いやいやいや、

田中 はい、出さなきゃ、

彼女 待って、

田中 出さなきゃ負けよ、

彼女 やらんよ。

田中 なーんーでーよー。

田中はゴロゴロ転がる。

彼女 なんなん、意味わからん、

田中 意味なんかないわ。

彼女 ないん、

田中 (立ち直って) ゲームやから。

彼女 ゲーム？

田中 叩いて叩いてじゃんけんぼんゲーム。いえーい。

彼女 え、

田中 いえーい。

彼女 いえーい、

田中 じゃんけんして、きみが殴ります。

彼女 うん。

田中 じゃあいくよー。じゃんけん、

彼女 待って、

田中 じゃーんけーん、

彼女 だから待ってって、

田中 なんやねん、もおお、上げてこーぜヴァイブスを、

彼女 嫌だよこんなん殴りたくないよ。

田中 なーんーでーよー。

田中はゴロゴロ転がる。

田中 こんなに頼んでるのに、

彼女 いや、無理やって、

田中 (立ち直って) 俺、どMやねん。

彼女 いやいやいや、

田中 もうどうしようもないねん。もうさ、頭のなか、壊れ

たテレビみたいに叩いてもらわんと、

彼女 今どきテレビ叩かんやろ、

田中 だから置いてかれてんねん、俺は、頭んかが、昔ながらの砂嵐がざーざーしてて、もうイーって首がどんどんねじ

れていつてもう自分の中身がめっちゃかゆいねん、アトピー

酷いときを思い出すような、プレートテクトニクスみたいに

皮膚の炎症部分が自分の深く深くに沈み込んでいつて、チャ

クラとか言い始めたら精神やし、中枢と考えれば脳やけど、

なんか自分の中心みたいなどころにその痒みが降りていつて

手が届かんところにあるねん、俺ごと叩き潰してもらわんと

この痒みは収まらん、

彼女 ちゃんと医者行ってる？

田中 マッチポンプやわ、医者行くために仕事する、仕事すると病む、もうなんのために生きてんだか、それでもきみは一緒にいたいと言ってくれるけど、このままだときみの声も理解できなくなる気がするわ、

彼女 ごめん、今日は帰るわ、

田中 一人にせんというて、

彼女 ごめん、

彼女は部屋を出ていく。

田中は金属バットで素振りをする。

田中 死ね、死ね、死ね、死ね、

(ボロボロに疲れるまで続けて) 疲れた。

田中 (疲弊しながら) 爽やかな汗。やっぱり適度な運動は精神衛生上大事よね。自殺したいなんてどうかしてたぜ。なんて日々を繰り返しているとある日おじさんが僕の罪を糾弾にくる。

老人が死に、発見が遅れたために酷く汚れた部屋。

ブラウン管テレビ、空間を覆い尽くすように存在するおびただしい量のVHS、部屋の中央にある布団は赤黒く汚れ部屋にはウジ虫が溢れている。

田中 うえ、なにこれ、

おじさん ウジ虫踏まんように気をつけろよ。

田中 (嘔吐の素振り)

おじさん 吐くならトイレ。

田中 うん。

田中はそのまま部屋を出て自分の部屋に帰ろうとする。しかしおじさんが追いかけて捕まえる。

田中 (関節を決められるか蹴られるかなどして暴力的に連れ戻される) 痛い痛いごめんごめんごめんごめんさい、

おじさん なめとつたらしばくぞ。

田中 すでに暴力に晒されています。

仕方なく部屋の状況と向き合うが、

田中 最悪やあ。

おじさん お前なあ、死体も見てへんのにガタガタ言うな。酷

かったぞ、ウジ虫が頭の中から爪先まで、モザイクみたいにウニョウニョウニョウニョ、

田中 わかったから。てか何、この臭い、

おじさん 殺虫剤の臭いや。

田中 ほんまに？

おじさん そう思ったほうがええやろ。

田中 だって(ウジ虫)めっちゃ元氣やで。

おじさん これでもこいつら本氣ちゃうで。

田中 (本氣のウジ虫を想像して) やっぱ無理やって。

おじさん 追い出すぞ。

仕事を突きつけられる。

田中 独居老人の孤独死、

おじさん なかなかトレンドーや。

田中 隣の部屋で、

おじさん そうやぞ、お前の責任でもあるんやぞ。

田中 なんでやねん。

おじさん お前が気付いとつたらここまでなってへんやんけ。

おかげで事故物件や。また家賃下げなあかん。

田中 そんな無理やわ、
おじさん なるのために住まわしたとんねん。少しはなんかの役に立てや。

田中 八つ当たんなや、なんもできんからこないなとんねん、
おじさん チャンスやんけ。

田中 なんのや、いるかこんなチャンス、
おじさん お前なあ、

田中 だいたいなんなんこの部屋、(VHSのラベルを見て)『もののけ姫 一九九九年一月二二日放送』『コマンドー 一九八九年一月一日放送』『ダイハード 一九九〇年一〇月七日放送』全部映画のテレビ放送か。

おじさん 気になるんあつたら持って帰ってええで。

田中 いらんわ。ネットで観るわ。

おじさん こんなんどうしてたんやろな。地震来たら一発やで。

田中 一発、

おじさん 崩れて下敷きになったら、

田中 そういう死に方、

おじさん いや。

田中 なんやねん。

おじさん ええからちやつちやと、

田中 でもまずいやろ。

おじさん なにが。

田中 勝手に片付けるとか、故人の意志っていうか、

おじさん 誰も聞いてへんのやからしゃあないやろ。

田中 家族とか、

おじさん 誰もおらん。

田中 え。

おじさん 連絡したよそりやあ。警察が調べた、十年ぐらい前に離婚してた、身元確認来てくれ言うたけどけえへんかった。

田中 なんでよ。

おじさん 「うちは縁切ってるんで」の一点張り。

田中 そんなん、

おじさん な。

田中 ビデオもやけど焼酎のペットボトル、どんだけ呑んだらこんな溜まんねん。

おじさん それがちよつと不思議なんやけど、

田中 やめて、

おじさん え、

田中 怖い話嫌い。

おじさん 違うわあほ。あんな、聞いたところによるとこのじいさんずつと酒止めてたんや。医者にも通って断酒会も、そういうときだけ呑まなかった可能性もあるけどほんまにひどい中毒で、飲むか飲まなかの二択、だからちゃんと酒やめてたんやと思う。

田中 やっぱ怖い話やんけ。

おじさん 呑まんとおれんなんかがあつたか死期を察して、でもどうせやつたらもつとええ酒飲みながら死にたいよな。

田中 まあこんな、酔うことに特化したような酒やのうて風味や安らぎ感じられるのがええな。

おじさん それとも実際死ぬってなつたらそういうのどうでもよくなるんか、安らかな死を得たいなんて所詮は煩惱つてもんもんなかぬ。

田中 苦しんで死にたくもないけど、

おじさん そういうことやから頼むな。

田中 嫌なことして生きたくもないんやつて、

おじさん 少しは罪悪感もてや。

田中 なにが、なにに対して、

おじさん ずつと家におつたんちやうんか。

田中 うるさいな、俺は俺で腐ってたよ、うじうじしてたよ、悪かったな。

おじさん ほんまになんも気づかんかったんか。

田中 知らんよつと寝てんたんやから。

おじさん これからどうすんねん。

田中 うるさいなあ、

おじさん 実家戻れって。ほんで病院行き。

田中 誰に話してもどうにもならん、医者がなにをしてくれた、

飲めば吐き気がして眠気ばかりの薬、

おじさん お前、彼女は？

田中 え、

おじさん ちゃんと考えろや、

田中 ええねんもう。

おじさん 別れたん、

田中 別れて、ない、と、思う、

おじさん 喧嘩か？

田中 なんかしんどいねん、

おじさん はあ？

田中 一人は嫌や、けど誰ともいたくない。

おじさん (呆れて) お前なんで生きてんねん、生きることに

ついてちやんと考えたことあるか。

田中 はあ？

おじさん あんな、生きることとは仕事なんや。だからこそしん

どくてもめんどくさくても体調が悪くても休まずやらなあか

んのや。今日の仕事をしたら明日の仕事ができる、そうやっ

て死ぬまで生きていくんや。

田中 ちよつとブラックすぎるやろ。

おじさん じゃあ家賃、今すぐ払え。

田中 そりゃあちよつと無理難題、

おじさん 親戚価格でタダ同然で、逆になんで滞納できんねん。

田中 しゃーないやんけ今は、

おじさん とにかくやつてもらおうぞ、契約どおりや。

田中 そんなん、

おじさん 「アパート管理業務の手伝い」、

田中 部屋出るとき死体なってるなんて思わん、

おじさん 想像力不足やな。

おじさんは去る。

圧倒的なVHSの量を目の当たりにして、

田中 (頭を抱える) なんて死んでんねん、

・第三話

時間が遡り、部屋の主である老人がグラスを持って現れる。ひどく酔っている様子である。

真琴 なんか言うたか、

田中 いえ。

真琴 そうかー。

田中 このときは、生きとった。時間を引き伸ばしたり縮めた

り、地面を波打たせて酔っ払ってたけど、このときは確かに生

きとった。

真琴 なんや。

田中 すごいですね。

真琴 え？

田中 いや、このVHS、

真琴 ぶいえいえい(的なゴニョゴニョ)、

田中 映画好きなんですか？

真琴 えいが、えいがな、うん、えいが？

あたりをうろつく真琴。

笑い出す。

田中 え、なに、

真琴 (思い出したようにグラスを渡して) まあ飲め。

田中 (グラスを受け取り) なんですかこれ、

真琴 ええから。

田中 (匂いを嗅いで) 焼酎？

真琴 ええから飲めって、
田中 典型的アルハラ、

突然真琴はひっくり返る。

田中 大丈夫ですか、
真琴 俺はこうしたいからこうしてるんや。
田中 はあ、
真琴 大丈夫や。きみは誰も殺さへん、
田中 え？
真琴 人の道を踏み外さん、
田中 あの、
真琴 だから絶対大丈夫。
田中 そうですか。
真琴 ダイジョーブ。
田中 あざす。
真琴 言え。
田中 え？
真琴 ダイジョーブ。
田中 (迷って) ダイジョーブ。
真琴 声が小さい。
田中 えー、
真琴 (大声で) ダイジョーブ、
田中 (仕方なく) ダイジョーブ、
真琴 (更に大声で) ダイジョーブ、
田中 (押されて大声で) ダイジョーブ、
真琴 もういっちゃよ、
田中 (完全に大声で) ダイジョーブ、
真琴 そう、
田中 (踊り出しそうなくらい大声で) ダイジョーブ、
真琴 ええぞ。
田中 (もはや踊りだして) ダイジョーブ、

真琴 うるさいな。

田中 えー、

真琴 お前誰や、泥棒か。

田中 なんてやねん。

真琴 舐めとつたらしばくぞ、無遠慮に人の部屋じろじろ、

田中 引つ張りこんだのあんたでしょうが。

真琴 そうか？

田中 あんなどこ倒れて、

真琴 倒れて？

田中 階段から落ちたんですか？頭打ったとか、

真琴 わからん。

田中 あー。ほっときやよかった。

真琴 見て見ぬふりすな、ちゃんとせえお前。

田中 お前に言われたないねんあんな天下の往来で、迷惑やろ

が。
真琴 ごめん。

田中 ったく、

真琴 お前誰や、泥棒か、

田中 もう、くそ、書くもんありますか？

真琴 うん？

田中 名前と電話番号、書いときますから、なんかなくなって

たら警察に電話したらいいでしょ。

真琴 よおわからん。

自分でペンを見つける。

田中 紙、ありますか？

真琴 うん。

関真琴は部屋の壁紙をデデデと剥がし、破って渡す。

真琴 これ貼っついてちようだい。

田中 はあ、
真琴 髪切った？

田中 突然老人がタモリのものまねを始めた、なにか張り合わなければ、なにか面白いこと、(部屋のVHSのラベルを見て)『スターウォーズ 帝国の逆襲』↓「JJエイブラムス」↓「三代目JJエイブラムス (from EXILE TRIBE)」だめだー、

田中は酷く落ち込む。

田中 センスがないんだよ、人を楽しませ、自分を楽しませ、上手に生きるセンス、いい作品を書くセンス、

真琴 お前誰や、

田中 『メント』って映画知ってます？

真琴 なんて？

真琴に見えないようにグラスに唾を吐く田中。

田中 (グラスを渡しながら) どうぞ。

真琴 うん？

田中 どうぞどうぞ。

真琴 おお、

田中 はい一気一気、

真琴は唾が吐かれた焼酎を飲み干す。

田中 おおー。

真琴 おおー。

田中 おおー。

真琴 おおー。

関真琴の故障が頭になる。

田中 大丈夫ですか？

ブラウン管テレビの電源を入れる真琴。
映し出されるのは砂嵐。

真琴 二〇一一年、東日本大震災の影響を鑑みられた岩手、宮城、福島の三県以外の地域は予定通り二〇一一年七月二四日正午をもって、日本国内におけるテレビ放送はアナログ放送から地上デジタル放送に切り替わる。そして翌年三月三十一日、先送りにされた三県でもアナログ放送はNHKの放送が開始した一九五三年から数え、約六〇年の役目を終えた。

いつかの、和奏との会話が混線する。

和奏 テレビは買わないんですか。

真琴 に、思えたがじつはロスタイムがあつて、それはケーブルテレビ局が行うアナログ変換、だがそれも二〇一五年三月三十一日で終了、

関真琴の体をウジ虫のようにアナログ放送の砂嵐が塗りつぶす。それに伴うノイズが彼の声さえも覆う。

真琴 以降この機械は砂嵐を映すだけのモノとなった。

・第四話

和奏 もうすぐ見れなくなるでしょ。

チューナーが合うように坂本和奏と関真琴の会話が始まる。

真琴 え？

和奏 テレビは贅沢品でもなんでもないんですから。もしなにか遠慮しているとかなら、

真琴 ああ、テレビ、

和奏 はい。

真琴 まあ、ええわ。

和奏 いいんですか、

真琴 解放されたいわ。

和奏 解放、

真琴 まあ俺ユーチューバーやし。

和奏 でもパソコンとかスマホとか、

真琴 なんとかなるって。

和奏 なりませんよ。ユーチューバーってどういうものかわかってます？

真琴 大丈夫や。

和奏 ユーチューバーになってなにするんです？

真琴 (戸惑って) だからユーチューバーをやるんやって。

和奏 えっと、ユーチューブって見たことありますか？

真琴 ない。

なにも言えなくなる和奏。

真琴 ユーチューバーってなに？

沈黙。

真琴 音量が大きいやろ、

和奏 音量、え、

真琴 俺みたいな、いわゆる独居老人や。

和奏 なんですか？

真琴 自分の耳が遠くなっていることにも気付かずどんどんテレビの音量を上げる。

和奏 確かにそういう方もいます。一人暮らしで誰も指摘してくれないから、

真琴 年取ったらいろいろわかるようになる思ってた。ところがどうや、広くなると思つた視野は緑内障で曇ると、耳は遠くなり世界の声は聞こえない、孤独には打ち勝てないし、いつかわかると思つた理屈は結局一つもわからへん、どこるかボケてこんがらがらる。わしの悟りはどこ行つた。

和奏 悟り、

真琴 もう、消化試合や。テレビ放送もないような、

和奏 なに言ってるんですか。まだまだこれからじゃないですか。

真琴 せやな。これからの俺はユーチューバー。

和奏 なんてユーチューバー？

真琴 (かわゆく) だめ？

和奏 (胸キュン) かわいいな。いや、だめとかじゃなくてどう

真琴 ういうコンテンツを発表していくかっていう、

真琴 コンテンツ、

考え込むように考えない真琴。
和奏はまわりを見渡して、

和奏 映画、

真琴 撮るん？

和奏 映画レビューですよ。

真琴 いや、えー。

和奏 これだけ映画を見てるんだから、

真琴 俺、映画好きちゃうし、

和奏 ちやぶ台返し、

真琴 人間には共感する力がある。だから、自分が体験していない、どこかか離れたストーリーでも自分のことのように共感でき、なんかか離れたストーリーでも自分のことのように教育的側面つてやつや。ただな、なんにも学ばなかったよ、俺は、ここにある映画から。どこにもつながらなかった。行

き止まりや、この部屋は。

和奏 まあ、映画は人を楽しませることが第一ですから、学ぶとかより、ほら、楽しめば、

真琴 楽しかったんかなあ、かといって他にどう時間を過ごせたのか、

和奏 この前繁華街行っただけで、で、疲れたからコーヒーでも飲もうと、でもね、その日に限ってどこも満席なんですよ。

真琴 え、うん、

和奏 スタバもドツールもコメダも、路面店もテナントも、そこら一带から僕の座れる席が消失したみたいで、そのとき『ライ麦畑でつかまえて』を読みたかったんですよ、いい歳したおっさんが、読んだことあります？

真琴 『陰謀のセオリー』って映画に出てきて、なんやっけ、

読んだらテロリストになるみたいな、

和奏 そんなわけじゃないでしょ。『コーラン』読んだ人がみんな自爆テロしますか。

真琴 ギャグやって、

和奏 確かにチャップマンもオズワルドも市橋達也も愛読してたって話がありますけどね、

真琴 だから、そういうギャグとして映画の中で扱われてんの。

和奏 それ、面白いんですか？

真琴 まあ、普通の映画や。プロデューサーがジョエル・シルバーやから血しぶきが美しいけど、なんでジョエル・シルバーが囃んでる映画はB級やのに流血は芸術的なんやろな。

和奏 いいじゃないですか。

真琴 え？

和奏 そんなかんじでやりましょ。

真琴 どんなかんじ？

和奏 あとは機械の使い方とか動画の編集と、アップロードとか、広告収入も入るようになったら、

真琴 えらい乗り気やな、

和奏 ぼくの仕事は、窓口に来てもらわないとどうしようもな

くて、審査とかあってみんなが生活保護を受けられるわけじゃないし、でもそのときのぼくみたいにどこにも席がなくて、あっても見つけられなくて繁華街を彷徨うしかないような人もいるんだろうなって、

真琴 まあ、そりゃあ最初は抵抗あったな。

和奏 え？

真琴 そこまでして生きたいのか、とか、いつでも首くったるわこんな情けない生き様、でも生きたいと死にたいが両立してわけわからんままだどうしようもない日々がどうしようもなく続いて、ほんで金だけはどうにもならなくて、でもやっぱり生きる意味がない、

和奏 そんなん、

真琴 甲斐っていうかつながりっていうか、

和奏 つながり、

真琴 家族もおらん、友達もおらん、やのに俺はいる。理にあわんわこんなん、話のタネにもならん思いを話のタネにもできずに腐らせる、なんてくだらない個人的なお伽噺、

・第五話

和奏 『ライ麦畑でつかまえて』を片手に、そのときやっところさ見つけた僕の席はデパートの屋上にあつた。三台並んだ自販機の一つからコーヒーを買ってその前にあるベンチに座って、屋根はあるけど風が強くて、本のページがショック死寸前の重症者みたいに暴れまわって、デパートの屋上は僕が記憶しているものと随分違った。あるのは花屋とペットショップと灰皿、街には人が溢れているのに閑散として、みんなあたたかいところにいるんだ。辺りは暗くなり始め、強い風のなか、まさしく「弊衣蓬髪」といった男がどこから現れた。伸び放題の髪、顔を覆い尽くすような黒い髭、ベージュ色の綿パンは裾が真っ黒に汚れていて、カーキ色のTシャツはこの季節なのに半袖で

靴下も履かずちびた黒いサンダルを履いて、男は突然這いつくばり、自販機の下を覗き込み、ぶうううと大きな音を立てながら息を吹き込み始めた。埃のなかに小銭が埋まっていないか吹き飛ばしているのだとわかった。僕は地面に這いつくばる彼の裸足のくるぶしから目が離せなくなった。彼の足首は白塗りされているように真っ白で、元からの肌の色なのか皮膚病の結果なのか栄養状態によるものなのか、いつしか男は体を半ば潜りこませるようにしていた。そのまま自販機の下空洞から何処かへ抜けていくんじゃないかと思った。「穴に飛び込む白ウサギ」、なら僕はアリスなのか？彼を追いかけて穴に飛び込むべきなのか？光輝く自販機のなかには息を吹き込むまでもなくたくさんのお金が入蔵されているはずで、この季節、寢床を得られなかった浮浪者と呼ばれる人たちは凍死を避けるために夜通し街を歩き続ける。時折はコンビニで暖を取り、しかし長くはいられない。「やめなさいよ」と僕は言った、男と目が合った、かつとこめかみが熱くなった、何故かとても恥ずかしかった、「やめなさいよ」って、馬鹿みたいに繰り返して、僕はいつの間にか一人だった。

・第六話

金属バットに頭をこすりつけ股間もこすりつけゴロゴロしている田中。

田中 にやーん。きもちいーなりー。

彼女 キモ、

田中 キモくないなり、冷たくて気持ちいいなり。

彼女 なんなん、久しぶりに来たのに、

田中 カレシできた？

彼女 はあ？

田中 むー。

彼女 まだ別れてないし、
田中 ほげ？
彼女 うちら。
田中 げろげろー。
彼女 ちゃんとわたしのほうを見る。
田中 こわいー。

布団に潜り込む田中。

彼女 寝るな。

田中 もう、なんか、いろいろ無理で、
彼女 病院は？

田中 どこも悪くないしい。

彼女 いや、悪いやろどう見ても。

田中 ちやうねーん。

彼女 なにが。

田中 だから、昔そういうところ通ったとき、

彼女 そういうとこ、

田中 心療内科っていうか、

彼女 ああ、

田中 膝枕して。

彼女 え、

田中 (ぐずる) おっぱいー。

彼女、呆れながらも膝枕をしてやる。

彼女 高くない？

田中 ふにふに。

彼女 風呂何日入ってない？

田中 臭い？

彼女 で？

田中 え？

彼女 続き、心療内科がどうたらこうたら、

田中 乳首触って。

彼女 はあ？

田中 乳首ちゃん、触ってあげんと可哀想やろ、

呆れながらも辛抱強く言うとおりにしてやる。

田中は乳首をいじられくねくねしている。

彼女 で、

田中 あん、

彼女 話の続き、

田中 やん、

彼女 (乳首をつねる)

田中 痛い、

不承不承、話をはじめめる。

田中 パニック障害ってことやったんやけど、

彼女 え、

田中 まあそれで医者はおっさんやったんやけどカウンセラーが女の人で、それでその人のこと好きになって、

彼女 はあ？

田中 もうさ、その頃ほぼ誰とも話せんかったから、でもとりあえず俺のう言みたいなこと決まった時間の間は聞いてくれてまあでもやっぱ話なんか通じんのやけど、俺と話してるとみんな眉間にシワがよるんやけど、それがちよつとしんどくて人と話すん怖くなつたんもあつたけどまあそのカウンセラーもやっぱり眉間にシワがよるんやけどなんか何度かカウンセリングしてるところそのシワを見るのが楽しくなってきたっていうか、ずっとカウンセリング中「ああこの女はセックスのときでもこういうふう眉間にシワがよるんやろな」とか妄想してだからどんどん自分の発言が自分の現状を上回

ってエスカレートしていつて、もつとぎよつとさせたいとかなってようわからんうちにようわからんことになって、

彼女 ようわからん、

田中 どこまでおかしなるんやろって、眉間のシワが見たいがためにどんどんあることないことだから病んでますエピソード量産してそれが自分でも本当に感じられてだから自分で自分の闇を深めてだから自分がもう怖くて、こんなことも想像できる、嫌がつてる人にこんな言葉も吐けるって、だから、

医者は嫌。

彼女 ごめん、全然論理的じゃないと思うんやけど、

田中 ほんでな、もつと嫌なんが、精神医学では患者の話す内容が真実か嘘かは問わんということや。そんなん勝たれへん

やん。

彼女 勝ち負けちやうやろ。

田中 とにかく嫌や。

彼女 しばらく泊まるか。

田中 え、

彼女 部屋も片付けてさ、

彼女に抱きついてキスしようとする。

彼女 だいぶ臭いで。

田中 なんで生きてるだけで臭くなるんやろ。

彼女 だから、やめてよ、お風呂入って、

田中 でもちやうねん、今キてるねん。

彼女 キてる、

田中 キてる、性欲、ずつとなかった、さすが俺の彼女ちゃん

やね、

彼女 ちよつと、

田中 ちゆきちゆき、

彼女 まずお風呂入って、

田中 そんな臭い？

彼女 結構、

田中 へへへ、

彼女 え、なに、キモ、

田中 そして僕は彼女を隣の部屋に連れて行く。僕がいきなり外に出て隣の部屋の鍵を開けたので当たり前だが彼女は驚いてちよつと得意になる。部屋は変わらず赤黒く汚れた絨毯、細切れになった神経のようなウジ虫、そしてニオイ、

関真琴が死んだ部屋。

彼女 え、え、え、え、え、なに、

田中 臭い？

彼女 いや、臭いけど、じゃなくて、

田中 この部屋片付けろって言われててさ、

彼女 なにこれ、え、

田中 どうかのじじいが死んで腐ってん。

彼女 え、なに、怖い、

田中 幽霊って信じる？

彼女 やめてよ、

田中 『ハムレット』ってずるいな。

彼女 はあ？

田中 父親の幽霊が出てきて、父親を殺したのがおじさんって教えられてそれで「よしおじさんぶつ殺そう」ってなるんやで。

彼女 それが？

田中 最初はハムレットもこれがほんまにオヤジの亡霊なんか疑ったり、見てるこつちもひよつとしたら見張りの兵たちのなかにクーデターを企む一派がいてハムレットくんを神輿に担ぎあげるために亡霊を見たマインドコントロールしてるんかとかそれともただの集団ヒステリーなんか幽霊っていう不確かな存在を行動の根拠にする危うさにドキドキするやん。彼女 その話、今しなあかん？

田中 個人的な幻覚なんか、思い込みやパラノイアじゃないのか、ちゃんと一瞬は悩むねん、しかもハムレットはもともと父の亡霊にことの真相を告げられる前からおじさんのこと疑つとんねん。でも亡霊はそれを補強することしか言わん。「驚愕の事実」なんてなく「やっぱそうなんか」っていうリアクシオンや。

彼女 帰ろ、あとで聞くし。

田中 ここまでやったら体に『イシユマエル』と書き込んだチヨ・スンヒとか手製の神様を作って自分の思いを補強した酒鬼薔薇聖斗とか、しかもハムレットは亡霊が去ったあと「手帳に書きとめておいてやる」とかなんとか言って売女たる母ガートルードと大悪党たるおじクロードディアスの名を書き込む、こんなないじめられっ子の中学生やチヨ・スンヒも作ってた『殺すリスト』と一緒やん、『罪と罰』がテロリスト文学っていうならハムレットもテロリスト文学として存分にその行くすえと転落にドキドキできるのに第三幕、王が、犯人が、亡霊が語った通りの真実を世界に告白するんや。第三幕やで、全五幕のうち第三幕、

彼女 ごめん、吐きそう、

田中 第三幕から、彼の行動は完璧に正当なことになるんや。

彼女に襲いかかる田中。

彼女 え、ちよつとなになに、

田中 部屋の臭いや、

彼女 待って、(押し倒され) うわ、ぎゃあ(髪の毛についたウジ虫やらなんやら)、

田中 しかもハムレットは真実を背にキチガイのふりしよんねん、ずるい、ずるすぎる、

彼女 やめて、ほんと、

田中 殺虫剤の臭いやから大丈夫、

彼女 なにが、馬鹿、

田中 怒りや悲しみが幻覚なんか、何が真実か何が愛か、
彼女 やめて、こんな嫌、
田中 もうなんもわからへん、
彼女 ほんまやめよ、今日生理やし、
田中 気にするなや、どうせ血だらけの部屋や。

彼女が抵抗してVHSを掴む。
ビデオテープの雪崩が起きる。

田中 どあああああ、
彼女 嫌やって言ってるやん。
田中 したいって言ってるやん。
彼女 わがままか、
田中 お前がや、

一人とも機嫌が悪い。

田中 セックスと死は同義やぞ、
彼女 はあ？
田中 やらせるや。
彼女 なんなん、最低、最低や、ほんま信じられへん、なんなん
んほんま、もう、うわ、

体にはたくさんウジ虫が付着している。

田中 ごめん、
彼女 うわ、キモい、最悪、うわ、ぎゃあ、
田中 これもなんかの経験やで。
彼女 はあああああ？

ふらふらと、立ち上がる彼女。

彼女 もういい。
田中 え、
彼女 疲れた。
田中 ごめん。
彼女 死ね。
田中 なんなん、なにが嫌なん、
彼女 (キレル)全部や。
田中 (負けじとキレル) ああもうわからんわからん帰れ帰れ
帰れ帰れ、
彼女 死ね、
田中 死ね、死ね、死ね、どうしたらええんよ、どうやったつ
て詐病やん。

彼女が出て行く。
発作のように暴れる田中。

VHSの山が崩れる。
棚からクシャクシャの茶色い紙袋を見つける。
ひっくり返すと弾丸、タオルでぐるぐる巻きにされた
何かが落ちる。
タオルをほどくと出てきたのは拳銃だ。

田中 拳銃？

田中は物体を検分し、スマホで調べる。

田中 (銃を手にとって見て) シーオーえるていー、え、コルト、これコルト？コルト・パイソンのコルト？えっと、える
えーだぶりゅーマン、らうまん？えむけー、あいあいあい？
さんごーなな、まぐなむ、しーていーじー、なんで英文読ん
でるときでも数字は日本語読みしちゃうかな、

検索。

田中 LAWMAN MK III 357 MAGNUM CTG (ローマンマー
クスリーさんごいなマグナムシューティージャー)、あいあいあ
いじゃなくてローマ数字のⅢか。取説、ないか、ユーチュ
ブ？

ユーチューブの動画を再生する。動画からはやたらに
低い男の声が響いてきて語られるのは英語だ。
動画で映されるのは男の手元だけであり、彼は『コ
ルト・ローマンマークスリー』のシリンダーを振り出し
てみたり引き金を引いてみたり、ベタベタと触りなが
ら使い勝手をレビューしている。動画を見ながら田中
も銃を操作してみる。

田中 (動画を見ながら弾倉を振り出す) あ、できた。あ、こ
れ馬のマークか、錆びててわからん、ほおー、ほおー、
銃弾を抜き、撃鉄を上げ引き金を引いてみる。カチ、
とクリック音。

田中 おほほ。

カチカチカチカチ、

田中 (大いにふざけて) ははははは。ほおー (動画を見なが
ら)ハンマー、撃鉄は、hammer。(動画と会話を始める) yeah,
I know, I love this gun.

銃が本物であると判断して良さそうな気がする。

田中 拳銃だ。その感触は僕を心底ほっとさせた。自分の凶暴
性に具体的ななたちが与えられた、これで僕は溺れない、生

きててよかった第三幕、やってきました第三幕、

第一幕

ま、一幕も二幕もないですけどね。
ひとしきり遊んでからおじさんに電話する。

おじさん 早いな。

田中 え、

おじさん いや、どうした。

田中 あのさ、聞きたいんやけど、

おじさん なんや。

田中 この人ってどういう人やったん。

おじさん え、

田中 いや、なんか、ビデオの量もすごいし、なんか、映画の

ジャンルも片っ端からつかんじやし、なんか、

おじさん お、なんや音を上げたのかと思ったら、ええぞええ

ぞ、何か感じるもんがあったか。

田中 何かって、

おじさん お前は他人に対する想像力がないからな、そうやって他人に興味を持つのはええこっちゃ。

田中 そういうことじゃないんやけど、

おじさん 九相図（くそうず）って知ってるか、

田中 糞、渦？

おじさん 待って、ググるわ。

田中 おお。

おじさん wikipediaによると、ええか、読むぞ、『屋外にうち捨てられた死体が朽ちていく経過を九段階にかけて描いた仏教絵画である。名前の通り、死体の変遷を九の場面にわけて描くもので、死後まもないものに始まり、次第に腐っていく血や肉と化し、獣や鳥に食い荒らされ、九つ目にはばらばらの白骨ないし埋葬された様子が描かれる。』えっと、『死体の変貌の様子を見て観想することを九相観というが、これは修行僧の悟りの妨げとなる煩惱を払い、現世の肉体を不浄なも

の・無常なものを知るための修行である。』

田中 ああ、

おじさん 知つとるんか、

田中 京極夏彦の『帷子辻』とか『ドグラ・マグラ』にそんな

ん出てきた。

おじさん お前そんなもん読んどんか。

田中 え、

おじさん あれやろ、読んだら頭おかしなる、ゆーて、

田中 いや、読んだん最近やし、

おじさん だから？

田中 おかしいんはずつとやし、

おじさん とにかくまあ、その部屋片付けてき、なんか悟れや。

田中 そんな冒涇や。この人は俺が悟るために死んだんちゃうぞ、

おじさん そらそうや。でもものごとから何かを感じるんはその人の自由や。

田中 そうやけど、なんかおかしいわ、

おじさん なんでよ、『ドグラ・マグラ』読んで頭おかしなるん

も読者の自由なんやろ、人の気が狂うようなもん売つたらあ

かんってわしなんか思うけど頭おかしなるのも自由なんやろ。

田中 そうや。でもわざわざ、人生経験のために災害地行ったりボランティアしたり、みたいなんてなんか不純やろ。

おじさん ええやろ、動機はなんでも善意なんやから。

田中 おかしいやろ、おかしくない？俺がおかしいのか。

おじさん なにが言いたいねん。

田中 まあ、で、どういう人やったん。

おじさん ああ。まあなというか、あれやな、生活保護受けてはってな、時折ケースワーカーさんだかなんだかが訪ねて

きたりはあったみたいやけど、どうも友達とかもおらんみたいやし、家族もおらんから葬式らしい葬式もなしや、部屋も

勝手に片付けてくれて話でな。

田中 そうなんや。

おじさん まあ生活保護のおかげか家賃の滞納もなかったし、
しましまさかこんな置き土産とはな、事故物件やわ、お前の
せいで。

田中 違うやん。

おじさん そんなもんやな。

田中 なんか、でも、生活保護ってことは、え、ずっと？

おじさん うち来てからはな、その前は知らん。ずっと昔は自

衛官やつたみたいやけど、

田中 そうか、なるほど。

おじさん え、

田中 じゃあまた、

おじさん え、なんや。

田中 いや、もうちよっとやろう思って、

おじさん そうかそうか、まあほな、頼むわ。

田中 (電話を切って) そっかそっかなるほどね、元自衛官だ

もんね、そりや拳銃の一個や二個、ってあれ？

部屋を見回して、

田中 なんやねんこのじじい。

・第七話

真琴 久しぶりに取り出した拳銃は錆びついて落ち葉のように
カサカサした。まるで動物の骨、『2001年宇宙の旅』では動
物の骨で敵を殺害したことから猿の進化が次へ進んだ。でも
俺は？今更何ができるって？酒をやめてもいつまでもぬけな
い手の震えが壊れたおもちやのようではない、進化だ、猿
にだってできたんだ、進化をするのだ、

流れ出すリヒャルト・シュトラウス『ツアラトウスト
ラはかく語りき』
ジャーソン、ジャーソン、バーン、デデーソ
デンデンデンデン……。

和奏 名前、どうします？
真琴 え？

モノリスではない。
そこにいるのは和奏、そして手のなかにあるのは拳銃
ではなく映像カメラ。

真琴 名前？

和奏 本名でやってもいいんでしょうけど。

真琴 なんの名前？

和奏 なんのつて、ユーチューバーですよ。

真琴 ペンネームがいるんか。

和奏 まあ、はい、

真琴 えーなんやろな。「どうも皆さん、ユーチューバーのユー

チューじじいです」、俺がババアやったら『ユーチュー婆』で

いけたのにな。ってそうか、俺、『ユーチューじじい』やなく

て『アル中じじい』やんな。

和奏 呑んだんですか？

真琴 呑まへんわ。

和奏 なんだ、

真琴 ほんまにみんなあれ楽しんでんのか？

和奏 なにがです？

真琴 だからユーチューブやないか。

和奏 楽しいじゃないですか、色んな人がいろんなことしてて、
映像つてもんが完全に日用品になったってことなんかね

え、しかしあんなゴミみたいな、
和奏 (ブチ切れ) やりたいんじゃないの？

真琴 はい。

和奏 みんな頑張って動画作ってんだよ。

真琴 はい。

和奏 舐めんじやないよ。

真琴 すいません。

和奏 別にぼくユーチューブに思い入れないですけど、

真琴 ないんかい。

おどけたポーズをする二人。

和奏 思い入れとかはともかくなんですよ。なにやるかはいい
んですけど、やってみようかなって思ったことは、なん
かあったことだと思おうので、真剣に考えなくてもいいけ
ど、あんまり適当なものもどうかあって、

真琴 『ユーチューブじい』駄目？

和奏 どうかなあ、

真琴 なんやさつきからグダグダグダグダ、

和奏 え、

真琴 じゃあお前がいい案だせや、

和奏 なんですすか、

真琴 ちなみにこれ大喜利やからな。

和奏 マジか、よーし、

真琴 早くしないとこいつの命はないぞ。

真琴は映像カメラを人質にする。

和奏 やめて、結構高かったのに、
真琴 (悪く) はっはっは。

頑張って答えを絞り出す和奏。

和奏 『すみれ』

真琴 え、

和奏 すみれちゃん、

真琴 どちらから出てきた、

和奏 いや、その、この前話してたんです付き合ってる人と、

その、子供の名前、

真琴 いつ産まれるん？

和奏 いや、全然、そういうんじゃないですけど、

真琴 はい？

和奏 向こうはバツついてたりお子さん居たりで、まだ具体的

に結婚とか話せなくて、

真琴 ほー。なんで『すみれ』？

和奏 英語で、『smile』って書いて、日本語読みたいとか、

真琴 うん？

和奏 笑って生きてほしいじゃないですか。

真琴 男の子やったら？

和奏 ぼく男に生まれてよかったって思ったことないんででき

れば子供は女の子がいいんですよね。

真琴 そうか。

和奏 聞きます？ぼくがどれだけ悲惨な青春を送ったか。

真琴 いらん。

和奏 バッサリ斬られ太郎。

・第八話

田中 あかん、ほぼ引きこもりやから誰を殺せばええかわから
ん。

頭を抱える田中。

田中 やばい、ほんまに世界と隔てられてる。諦めるな考えろ、過去には『殺すリスト』があふれるほどだったじゃないか。よみがえれ、俺の絆、

田中の思い出しむかつきタイム。
此度のお品書きは小学生時代。

伊藤 お前ほんましょーもない顔やな。

田中 あ、伊藤くん、

伊藤 ほんま雑魚みたいな、チェスで言ったらポーンやな。

田中 ポーン？

伊藤 お前チェスも知らんのか。

田中 知ってるわ。

伊藤 ほう、じゃあなんや、

田中 え、

伊藤 説明してみいや。

田中 だから、チェスは、

伊藤 おお、

田中 チェスっていうのは、

伊藤 はよ言えや。

田中 (泣き出す)

伊藤 やっぱ知らんのか、嘘つきや、おーいこいつ嘘つきやぞ、

クラスメイトたち 嘘つきや。最低や、嘘はいけないんだぞ。

伊藤 お前今日からあんぼんたんのポーンちゃんな。

田中 イヤだー。

クラスメイトたち ポンちゃん、ポンちゃん、(大合唱)

絶望して頭を抱える田中。

伊藤 お前ほんましょーもない顔やな。

田中 あ、伊藤くん、

伊藤 将棋で言ったら歩やな。

田中 ふ？

伊藤 お前将棋も知らんのか。

田中 知ってるわ。

伊藤 ほう、じゃあなんや、

田中 え、

伊藤 説明してみいや。

田中 だから、将棋は、

伊藤 おお、

田中 将棋っていうのは、

伊藤 はよ言えや。

田中 (泣き出す)

伊藤 やっぱ知らんのか、嘘つきや、おーいこいつ嘘つきやぞ、

クラスメイトたち 嘘つきや。最低や、嘘はいけないんだぞ。

伊藤 お前今日から「ふ」な。

田中 イヤだー。

クラスメイトたち 「ふ」？「ふ」？「ふ」かあ。

伊藤 え、

クラスメイトたち 伊藤くんどうしたんやろ。いつものキレがないよね。年かな。そうね、私たちもう小学四年生だもんね。

才能枯渴したんかな。年はとりたくないものね。

伊藤 (あ、やばい) なんてうっそー。

田中 あ、

伊藤 え、

田中 嘘つきや。みんな、伊藤くんが嘘ついたで。

クラスメイトたち え、伊藤くん、嘘ついたん、え、あの伊藤

くんが、信じらんない、清廉潔白を絵に描いたような伊藤

くんが、曲がったことが大嫌いな伊藤くんが、竹を割ったよ

うな性格の、誰にでも優しい、クラスのリーダー的存在の伊

藤くんが、

田中 大衆は愚かだ、

クラスメイトたち 幻滅した、裏切られた、これから伊藤くん
いじめない？

伊藤 待って、

クラスメイトたち そうだね、それがいいね、嘘はいけないん
だぞ。

伊藤 ガッデム、このままだと僕がいじめられてしまう。諦め
るな考える。よみがえれ、俺の絆、

伊藤、考えて、思いつく。

伊藤 (挙手しつつ) エウレカ。

クラスメイトたち はい、小遊三さん。

伊藤 小遊三じゃねえし。

田中 これが、スクールカーストの闇、

先生 はいお前ら席につけー。

クラスメイトたち あ、先生来た。

先生は出席を取る。

でも伊藤だけ小遊三。

伊藤 小遊三じゃねえし、なんだよみんなで馬鹿にして。こう

なりや起死回生の一手、学級崩壊だ。

一同、学級崩壊する。

先生 おい、お前ら、

見るも無残に崩壊する。

先生 お前ら、そんなんじゃない大人になれないぞ。

しかし誰も聞いていない。

皆、イヤホンの音量を上げてんでバラバラの歌を歌う。

先生 なんだよみんなで馬鹿にして、

クラスメイトたち 少子高齢化、地球温暖化、大量絶滅、人口
爆発、

先生 ろくなことにならないぞ。

先生は泣きながら去る。

伊藤 これだから大人は、

田中 ねえ伊藤くん。

伊藤 どうした田中くん。

田中 僕らこれからどうなるんだろう。

伊藤 知ったことか。これが僕らのシンギュラリティ。

田中 伊藤くんは将来なにになるの？

伊藤 CEO。

田中 かつこいい。

伊藤 それはそうとお前ほんましょーもない顔やな。将棋で言
ったら歩やな。

田中 ふ？

伊藤 お前将棋も知らんのか。

田中 知ってるわ。

伊藤 ほう、じゃあなんや、

田中 え、

伊藤 説明してみいや。

田中 だから、将棋は、

伊藤 おお、

田中 将棋っていうのは、

伊藤 はよ言えや。

田中 縦横九マスに区切られた将棋盤と馬鹿の駒を用いて遊び、相手の「王」を取ることを目的とする二人用のボードゲームで、

伊藤 やっぱ知らんのか、つてあれ、

田中 古代インドの『チャトランガ』がその起源とされ、戦争好きの王に戦争をやめさせるため、戦いを模したゲームを高僧が作って王に献上したのが始まりとする説があり、

伊藤 おやおや、

田中 「レジャー白書」によると、将棋人口は八五〇万人、対して囲碁人口は三一〇万人、この差は将棋のほうが囲碁にくらべて具体性が高くつつつきやすいからと言われている。

伊藤 (不承不承) やるやん。

田中 ありがとうインターネット、サンキューウイキペディア、

伊藤 お前ほんましょーもない顔やな。将棋で言ったら、

田中 将棋というのは縦横、

伊藤 「二歩」やな。

田中 え？

伊藤 「二歩」みたいにしようもない顔や。

田中 ニフ？

伊藤 お前「二歩」も知らんのか、知ってるわ。

田中 じゃあなんや。

伊藤 ニフっていうのは、

田中 はよ言えや。

田中 (泣き出す)

伊藤 おいこいつ「二歩」も知らんぞ。

クラスメイトたち 知らんの、あほや、遅れてる、ニフってなに？キモ、頭おかしいんじゃないの、

伊藤 二歩、二歩はな、将棋の反則や。

田中 なんやねん将棋の反則つて。駒で殴るんか。

伊藤 違うわあほ。

田中 こんなかんじでずっと馬鹿にされてきたが「二歩のような顔」つて未だによくわからない。クラスのゴッドファーザーとして下々のものに恥辱を与える名付けを行ってきた伊藤くんは将棋への謎のこだわりが仇となり業界を引退、

伊藤 肉体的に限界を感じた。

田中 以降カースト下位へのネーミングライツは宙に浮き、「二歩」が僕の最後のアダ名となった。「二歩」、それは初歩的な凡ミスだが将棋の反則の中では最も起こりやすいものでありプロ高段者の対局においてさえしばしば発生する。つまり僕が生まれたのは神の凡ミス、人生が将棋であったなら僕は「二歩」と名付けられたあのとときに反則負けを喫してそのあと行われるのは感想戦、ああすりやよかつたああ言えよかつたその後後悔後悔後悔、というわけで僕は田中浩之から「ダブルステップ田中」に改名します。「二・歩」を英語にして「ダブルステップ」、次回、『殺人鬼ダブルステップ田中の帰還』地獄で会おうぜ。

ダブルステップ田中は街に飛び出した。

・第九話

某役所、屋上、非公式な喫煙所。

タバコを吸う上司と和奏。

上司 女つてやつは、なんなのかね。今日ね、来るよきの電車、女性専用車両は比較的空いてたのさ。しかし若い女が混雑しているこっちの車両に乗ってきて。頼むからあっち座つてくれ、気を遣うだろうって。

和奏 たまたま並んじやって、並び直すのが面倒だったんじや

ないですか。

上司 しかし我々がたまたま女性専用車両に並んでしまったら移動しなあかんやろ。

和奏 そりやまあそうですね。

上司 女性の部下つても気を遣うんだよ。言い方も、肩だつて叩けない、冗談も言えない、ほら、俺って見ての通り非モテだからちよūdい女性との接し方つてわかんないんだよな。

和奏 難しいですね。

上司 もう怖いわ、セクハラだのパワハラだのどんなセ・リーグ、パ・リーグやねん、退職へのマジック点灯やで、ハラハラするわ、なんかもう、綺麗な女性を見ると金属を舐めたみたいに心臓がひゅつてすくむわ。

和奏 なんですかそれ。

上司 今、俺に話させてる？

和奏 え？

上司 俺が上司やから、話を合わせるのが義務やから？それとも俺より偏差値のいい大学出てるから見るからに非モテな俺のレベルに合わせてやってる？

和奏 なに言ってるんですか。

上司 例えばさ、ものすごい完璧な隙がないかんじの美人がいって、その人が突然鼻くそほじる。

和奏 はあ。

上司 それに対してきみはどう思えるかって話やねん。

和奏 汚い、とか、行儀が悪い、とか、

上司 ほんまにそう思えるか、ともすれば鼻くそほじるしぐさまで美しいと思うかもしれないし、そんな美人のレアなしぐさが見れたとなにかに対して優越感を持つかもしれないし、なんならそんな美人の鼻くそなら食べたいと思うかもしれないやん。

和奏 そんなに美人なんですか？

上司 人間、ほんまにものごとを公平に見れるんかって話や。

和奏 仮定に仮定を重ねすぎてもうよくわからないんですが、

上司 お前シラカワさんと会ってる？

和奏 え、

上司 プライベートでさ、困るよ客に手を出しちゃ。

和奏 手を出さつて、

上司 しかもこんな、不正受給だの国の財政圧迫だの風当たり強いんだからさ。

和奏 えっと、どういうことですか？

上司 いつから狙ってた？

和奏 え？

上司 最初に窓口に来たとき？涙ながらに窮状を訴える姿を見たとき？あ、じつは昔からの知り合いとか？

和奏 違いますよ、なんでそんな話になってるんですか、

上司 関係を強要したんじゃないの？

和奏 え？

上司 若くして子供を産んで、相手のDVで別れて、親の反対押し切つての結婚だったから援助も受けられないってことで一人で頑張つて子供育ててたけど鬱になって仕事もできない、切羽詰まってるよな。

和奏 いや、ないです、ないない。

上司 訴えがあったんだけど。

和奏 え？

上司 シラカワさん本人から。

和奏 どういうことですか、

上司 関係はあるの、ないの。

和奏 お付き合い、させてもらつて、そういうつもりで、

上司 そもそもがさ、対等な立場じゃないんだから。

和奏 え？

上司 不適切な関係だよ。

和奏 でも僕らは、ちゃんとお互い話をして、

上司 きみがさ、その人の現状を、まあなんと言ったらいいか

左右できる？立場であったことには違いないんだから、和奏 ちゃんと、気持ちをも、

上司 どうしたって人間関係、損得勘定が生まれるのかなあ。

きみと話をするとき彼女はいつも笑顔だった？その笑顔は本当に心からのものだった？

和奏 もちろんです。

上司 そんなことなんでわかる？きみの顔色を伺って、自分を押し殺して、きみが望む姿を演じていたとは思わない？

和奏 思いません。

上司 じゃあなんでシラカワさんはそんなこと言ってきたのかな。

和奏 なにかの間違いです。

上司 こういう注意ってパワハラ？

和奏 絶対おかし。

上司 みんなさ、必死で生きてるよ。そのためには擬態もするし毒も持つよ、

和奏 え？

上司 生存競争だよ、お伽話じゃない。

・第十話

田中 名前も決まってこれでいけると思ったけど気ばかり焦ってどうしようもない。リュックのなかで暴れる銃が早く早くと背中を小突いてくる。こんな扱いしたら暴発するんじゃないかと思う。もはや誰でもいいのかもしれない。それじゃあただの通り魔だ。

カウンセラー然とした白衣を着た女がカウンセラー然としてている。

白衣を着た女 調子はどうですか。

田中 やっとやることが定まったってかんじなんですけど、

白衣を着た女 ああそれはよかったですね。

田中 なんかなりたくないんですよ。

白衣を着た女 あれれ、

田中 そこまでして生きなければならぬのかと思って、

白衣を着た女 じゃあお話ししましょうか。

田中 先生。

突然ダブルステップ田中は白衣を着た女に抱きつく。

白衣を着た女 眠れてますか。

田中 だめです、怖い夢ばかり見て、

白衣を着た女 聞きますよ。

田中 夢のなかで僕は広大なスケートリンクを見下ろしています。明かりはどこにもないのですが氷自体が淡く光り辛うじて視界が保たれる。ただ一人、氷の上に人影が見えます。その人は緩慢なスピードでスケートリンクを滑っている。

白衣を着た女 それで、

田中 それだけです。

白衣を着た女 なるほど。

田中 夢のなかの、伸びきったゴムのような時間のなかでただ

ただ人影が滑るのを見えています。静けさのなかでときおりスケート靴が氷を削る音が聞こえます。それだけの夢なのですが、僕はその光景に対して逃げ出したいような恐怖感と不快感を持っていきます。でも夢は終わらない。

白衣を着た女 なるほど。

田中 昔から見る夢です。そして怖いのが、僕が年齢を重ねる

たびにそのスケートリンクとの距離が近づいてきていくという事です。最近、この夢のなかで感じる恐怖はこの影の正

体に起因するのではないかと思っ、この夢を見続ければそ

のうち真つ黒な影が目と鼻の先にいるかもしれない、正体を表すかもしれない。そのとき僕が正気でいられるか、

白衣を着た女 (ただただ無駄な間をとって) なるほど。

田中 この夢はいつたいなんなんでしょう。

白衣を着た女 じゃあ服を脱いでください。

ダブルステップ田中は下着一枚になる。

田中 パンツは、

白衣を着た女 どっちでもいいです。

ダブルステップ田中は混乱する。

白衣を着た女 準備ができたら横になってください。

ダブルステップ田中は横になる。白衣を着た女は聴診器をあてる、が、どんな性的に、例えば乳首を聴診器で軽く撫でたりする。その度にダブルステップ田中はなにか性的な反応をする。

田中 先生。

ダブルステップ田中は女の胸を揉み始める。

白衣を着た女 もう、ちよつと、えつと、

田中 サトウです、サトウ、

白衣を着た女 サトウさん、もう、そういうお店じゃないんですから。

田中 (正気に戻って) あ、だめでした。

白衣を着た女 いや、そういうお店なんですけど。

田中 あんまよくわかってなくて、

白衣を来た女 大丈夫です大丈夫です、

田中 『カウンセラーと患者』コース、

白衣を着た女 すいません、私慣れてなくて、

田中 僕も慣れてなくて、

白衣を着た女 えへへ。

田中 えへへへ。

真琴の部屋。

和奏 関さんはどうして離婚したんですか？

真琴 はあ？

和奏 性の不一致とか？

真琴 そんな現代的な理由ちゃうわ。

和奏 なにかあったんですか？

真琴 答え合わせしてるみたいや。

和奏 そんなじゃないですけど、

真琴 呪われたんや。

和奏 はい？

真琴 そこにいるための努力と「ここにいろ」という呪い、そういうふう感じなければうまくいったかもしれない、でも一度そう感じてしまったら、

和奏 関さんの時代は学校で性教育とかありました？

真琴 性教育？

和奏 小学校の、三年とか四年だったかな、授業でそういう、

男と女の違いやらセックスの仕組み、

真琴 多感な年頃、

和奏 僕ね、そういうことに興味がなかったというか、全然知らなかったんです、発育が遅くて身長も低かったし、毛も生えてませんでしたし、『ドラクエ』ってやったことあります？

真琴 あー、

和奏 テレビゲームなんですけど、

真琴 ゲームはやらんなあ。

和奏 『ドラゴンクエスト』っていうのは、まあファンタジーの世界なんです。剣と魔法、その『ロード・オブ・ザ・リング』みたいな、

真琴 ドラゴンやもんな。

和奏 それで、いろんな魔法があつて、火の魔法、風の魔法、氷の魔法、風の魔法は、一番弱いのが「バギ」、そこから「バギマ」「バギクロス」ってかんじで、キャラクターのレベルに応じて強くなつて、

真琴 うん？

和奏 「ヴァギナ」って言わされたんです。

真琴 え？

そんなこんなでプレイは続いている。

田中 あ、あ、あ、あ、

白衣を着た女 感じやすいんですねサトウさん。

田中 感じやすくってごめんなさい。

白衣を着た女 大変ですね。しんどかったですね、

田中 辛い、壊れそう、

白衣を着た女 我慢しないで、辛いこと全部吐き出しましょう。

田中 先生、

白衣を着た女 どうですか、トラウマ、出そうですか？

田中 出そう、出そうです。

白衣を着た女 いいですよ我慢しないでぶちまけてください、

サトウさんの熱いトラウマほしい、

田中 えっと、

白衣を着た女 そろそろいかなないと時間もありませんし、

田中 それってトラウマとスペルマをかけてます？

白衣を着た女 え、

手が止まる。

田中 すいません、

白衣を着た女 面白いですね、サトウさん。

真琴の部屋。

真琴 「ヴァギナ」？

和奏 性教育で、大声で、なんか急にいろんなことが生々しく

なつて生臭くなつて、ああ嫌だなあつて思つて、そこで担任に当てられて立たされて、「女性のこの部分はなんていいですか」つて、周りはみんなニヤニヤしてて、なんかすごく恥ずかしくて、でもその担任の女性はどうしても言わせたいのか怒り出して、「メラ」とか「ヒャド」とか「バギ」とか「バギマ」とか「バギクロス」の世界にいたのにいきなり「ヴァギナ」、仕方なく言ったらみんなが爆笑して、今から思えばあれが僕が一番最初の「恥辱」つてやつで、

真琴 そうか、

和奏 なんかもつと自分のペースでいろいろ知つていききたかつたというか、わかるんですけどね、ただ僕だけが周りの成長とペースが合わなくて、それなのに無理に欲しくもない食べ物

を口に入れられて苦くて臭くてすごく嫌でも好き嫌いのなつて言われて、なんかそこからいろいろ歪んじやつた気がして、わかつてるんですけど、小さい下らないことだって、でもあれがなかったらなんか、僕の性欲みたいなものも健全

かに成長したんじゃないかって、すいません、

真琴 なんかつたんか。

和奏 僕この仕事やめることになりました。

真琴 え、

和奏 関さんにはご迷惑をおかけして申し訳ありません。

真琴 いや、そんなんはええんやけど、

和奏 後任の担当者とか引き継ぎとか、いろいろ、いろいろ、
(泣き出す)、
真琴 えー、

風俗店。服を着たダブルステップ田中。

白衣を着た女 すいません。

田中 いや、僕の調子が悪かったから、

白衣を着た女 店の人には、その、

田中 え、

白衣を着た女 えっと、

田中 ああああ、いけたって、もうバリバリ、

白衣を着た女 すいません。

田中 いや、そんな、素敵でした。

白衣を着た女 また来てくださいな。

田中 はい、もちろん。

ハグされうらしい。

白衣を着た女 それでは、院長の診察受けてくださいな。

田中 え、

白衣を着た女 わたし、カウンセラーで医者じゃないんです。

真琴の部屋。

和奏 僕は付き合ってるつもりで、そりゃ出会いはこんなんだ
けど、でもちゃんと愛があるんだって、今はまだ無理だけど
結婚もしたいって、そんなこと思ったのも初めてで、

真琴 そうか。

和奏 でも立場ってものが最初から僕らの間にあって、僕は知
らない間に自分の気持ちを押し付けてあの人に我慢や犠牲を

強いてたんです。相手は社会的弱者ってやつで、僕は自分が
強者だって気付きもしないで、

真琴 いや、俺は、坂本さんが親身になっていろいろ、

和奏 僕ね、今裏切られたって気持ちでいっぱいなんです。

真琴 うん。

和奏 自分のしてしまったこと、理解しても結果が出てても、
それでも愛があったからって自分を正当化してしまっ。知
ってます？セックスをしたら愛が生まれるって思うのは人間
だけなんですよ。だから人間は恋人をつなぎとめるためにレ
イプするし片思いの相手をレイプするし町で見かけただけの
人をレイプするし、今から思えば僕は最初からそのつもりだ
ったんじゃないかって、権力をかさききてあの人を、

真琴 罪悪感のせいやって。

和奏 全部ウソだったのかって、僕といるときに見せてくれた
笑顔やしてくれた話、その裏で僕はどれだけあの人を怯えさ
せていたんだろう。

真琴 話は、できんのか？

和奏 ストーカーは、みんな「納得いかない」って言うんです。
だから話をするために待ち伏せしたり、でも相手が会ってくれ
なくて、それでどんどん会うための努力が過激になってどん
どん相手が怯えていって。ぼくは真実はいつも自分にあると
思っているごく一般的な人間なんです。

真琴 話は、できんのか？

和奏 ストーカーは、みんな「納得いかない」って言うんです。
だから話をするために待ち伏せしたり、でも相手が会ってくれ
なくて、それでどんどん会うための努力が過激になってどん
どん相手が怯えていって。ぼくは真実はいつも自分にあると
思っているごく一般的な人間なんです。

真琴 話は、できんのか？

和奏 ストーカーは、みんな「納得いかない」って言うんです。
だから話をするために待ち伏せしたり、でも相手が会ってくれ
なくて、それでどんどん会うための努力が過激になってどん
どん相手が怯えていって。ぼくは真実はいつも自分にあると
思っているごく一般的な人間なんです。

真琴 話は、できんのか？

和奏 ストーカーは、みんな「納得いかない」って言うんです。
だから話をするために待ち伏せしたり、でも相手が会ってくれ
なくて、それでどんどん会うための努力が過激になってどん
どん相手が怯えていって。ぼくは真実はいつも自分にあると
思っているごく一般的な人間なんです。

真琴 話は、できんのか？

風俗店。

医者 (キチガイじみて愛想がよい) どうもお疲れ様でした。

田中 え、はい。

医者 どうでした、アケミちゃん。

田中 ああ、えっと、幸せでした。

医者 そうですかー。いっぱい出ましたか？

田中 え、まあ、はい。

医者 そうですかー。
田中 はい、もう、バリバリ。
医者 何かご意見ありましたら当店のサービス向上のため、遠慮無くおっしゃってくださいね。
田中 いや、よかったです。
医者 ありがとうございます。診察券は作りますか？
田中 え、それはどういう、
医者 お作りいただけますと診察のたびにポイントが貯まった
りご指名履歴やお好みの女の子のタイプの記録させていた
きましてスムーズなご案内をさせていただけますけれども。
田中 なるほど。
医者 ただの診察券ですから、あんまり堅苦しく考えていただ
かなくても。
田中 はあ。
医者 じゃあお作りしますね。
田中 あ、はい。
医者 病名はどうしますか？
田中 え、
医者 だいまキャンペーン中ですので好きな病名お書きし
ますよ。
田中 好きな病名？
医者 はいどうぞご遠慮無く。
田中 じゃあ、パニック障害とか。
医者 パニック障害。はー。
田中 え、
医者 またえらいとこいきますねえ。
田中 そうですか。
医者 お客さん、通ですね。
田中 ツー？
医者 じゃあうつ病にしておきますね。
田中 なんでやねん。

医者 自己診断は禁物ですよ。
田中 はあ。
医者 それじゃあ指名料込で18,000円です。
田中 はい。
医者 確かに。それではお大事に。
田中 はい。
医者 ありがとうございますー。
店を出るダブルステップ田中。
田中 素寒貧になった。風俗って博打だ。博打に負けて散々だ。
和奏 一番近いと思ってたんです。でも今では世界で一番遠い。
どうしよう、こちらが加害者だって結果が出るのに被害者
面したくてたまらない。
田中 どういう人なら殺せるだろう。他人を踏みにじりながら
もそんなことは意に介さず幸せを満喫できる連中、普段食べ
ているものがどこかの国で不当に搾取されている児童労働者
が作っていたとしても僕は少し心を痛めて忘れてしまえる、
それぐらいの距離の人間。
ダブルステップ田中がベンチに座って酒を煽っている
と「弊衣蓬髪」とした男（白ウサギ）がふらふらと現
れる。和奏がデパートの屋上で見たままの格好。
田中 結局、浮浪者、みたいなのが落とし所なんだろう。弱
いものがさらに弱いものを叩くといった、そういう結果にし
かならないんだろうか。いや、そうとも言えないかもしれな
い。侍が行ったという試し斬りのようなもので身寄りのなさ
そうな浮浪者で練習をして、それからじつくりと本番に備え
るといいうのもありかもしれない。

白ウサギが振り向く。ダブルステップ田中は何かを
ごまかそうとする。白ウサギは一瞬何事にも気づかな
かったようなふりをして、それから一目散に走り出す。

田中 あ、待て、

意味なく追いかける。
真琴の部屋。

和奏 すいません。

真琴 別に、

和奏 こういうふうに関さんに話してしまったのもよくないこ
とですよ。

真琴 え？

和奏 関さんは聞くしかないじゃないですか。

真琴 どういうことや。

和奏 僕は役所の人間で、関さんは受給者で、

真琴 そんな関係ないよ。

和奏 すいません、ちよつとどうかしてますね。

真琴 飲みに行くぞ。

和奏 え？

真琴 俺は、あんたのこと友達やと思ってるよ。

・第十一話

白ウサギを見失ったダブルステップ田中。

田中 どこやここ。

見たこともない場所に迷い込んでいる。

田中 (あたりの看板を読んで) 定食屋『マリー・アントワネ
ット』、「はり、小児科、霊視」の『ミナミノ大天狗』、『中国
三千円の癒やし』、

カタコトの女 お兄さん。お兄さん。

田中 (気づいて) あ、はい。

カタコトの女 女の子どう？

田中 え、

カタコトの女 三千円だよ。

田中 いや、

カタコトの女 本番ありだよ。

田中 いや、いいです、

カタコトの女 かわいいよ。

田中 興味ないんで。

カタコトの女 興味ないの？

田中 はい、すいません。

カタコトの女 そっちか。

田中 そっち？

カタコトの女 そっち。

カタコトの女が指差した方向に映画館。

田中 映画館？

カタコトの女 早く行け。

田中 え？でもこれ、ポルノ映画館？

カタコトの女 行け、馬鹿、殺すぞ。

田中 え？え？え？

カタコトの女 呪うぞ。

カタコトの女、呪い始める。

田中 え、なに。

女が怖いので映画館に入る。

田中 (上演作品のポスターを読んで) 『本日上映、三本立て』

『おしゃぶり三姉妹』、『むなげの未亡人』、『おんな幽霊腰砕け』、え？ 『むなげの未亡人』？

受付 入るの？

田中 いや、えっと、

受付 (黙る)

田中 『むなげの未亡人』ってなんですか？

受付 (舌打ち)

田中 すいません。

受付 五〇〇円。

田中 え？

受付 五〇〇円。

田中 あ、はい、

金を払うダブルステップ田中。

受付 (舌打ち)

田中 あの、

受付はあごだけで行き先を示す。

田中 あ、はい、すいません。

入場する。

田中 宇宙に放り出されたのかと思った。暗闇だ。スクリーンだけが太陽のように輝いて足元が見えない。

客席のあちらこちらで吸われているタバコが星のように輝いている。スピーカーからくぐもった女の喘ぎ。

田中 すでにスクリーンではモザイクのかかった女の姿が揺れている。ウジ虫が這い回っていたという老人の死体。酷い音響だ、絶対ドルビーデジタルではない。

不確かな足元を進みながら席につく。酒瓶を煽る。泣き出すダブルステップ田中、スピーカーからの女の喘ぎ。女装男が現れる。ハイヒールを音高く打ち鳴らし、確かな足取りで歩き回る。ダブルステップ田中が向けた視線の先にお互いの体をまさぐりあう男性同士のカップル。別の方向にも、場内のあちこちにそういった男性の二人組がいる。そのうち女装男がダブルステップ田中の近くに座る。視線が痛い、落ち着かず酒を煽るダブルステップ田中。そのうち女装男が動いて、

女装男 楽しんでる？

田中 え？

女装男 楽しんでる？

田中 えっと、なにを？

女装男 なにをっていうか全部？

田中 全部？

女装男 ここは初めて？

田中 はい、

女装男 どう？

田中 場違い感が強い。

女装男 そう。

田中 普通のポルノ映画館だと思ったから、女装男 普通のポルノ映画館って面白いね。

田中 いや、その、『タクシードライバー』でデ・ニーロが通つてたようなのをイメージしてたっていうか、

女装男 違った？

田中 えっと、まあ、とくにポルノ映画館のイメージを持って生きてきたわけじゃないんですけど、

女装男 ふーん。

女装男はダブルステップ田中の髪の毛を撫で回す。

田中 えっと、ははは。

女装男とダブルステップ田中のキス。

田中 ははははは。

女装男 どう？

田中 どうって、なんか、ははははは。

しばらくお互い言葉がない。

田中 あるん？

女装男 え？

女装男の股間を触る。

田中 ははははは。

女装男の性器をダブルステップ田中は握る。が、躊躇がある。でそこへの回り道もある。例えば膝を擦り胸や首筋をなでてやり、そしてようやく到達する。

女装男 ああ。

女装男の性器をこするダブルステップ田中。

女装男 あ、ふう、う、かは、あ、あ、

などと息を漏らしているが、

女装男 あ、ちよつと痛い、痛い、痛いいたたたたたた、

ダブルステップ田中の手を引き離す。

女装男 なに。

田中 え、

女装男 大丈夫？

田中 はい、もう全然、ちよつと、

女装男 そう。

再びダブルステップ田中にこすらせる女装男。はじめ

は調子がいいがやがて、

女装男 うん、痛い、ちよつと、ちよつと痛いかな、痛い痛い

痛い痛い痛い痛い、痛いって。

田中 (手を引き剥がされ) え、

女装男 なんなん。

田中 いや、えっと、

女装男 どうした。

田中 いや、すいません、あれえ、

女装男 ほんと、頼むよ。

再挑戦、しかし、

女装男 ああ、もう、ああああ（手を引き剥がす）、下手くそ、

田中 え、

女装男 なんなんお前、

田中 いや、

女装男 ええかげんにしろや、お前は何がしたいねん、

田中 すいません。

女装男 もつとさ、こう、想像力を持ってさ、反応とか見てさ、

田中 ごめんなさい、すいません。

女装男 ちゃんとしろや。

田中 申し訳ございません。

女装男 愛がない。

田中 愛？

女装男 こんなん、全然、ほんときみ、だめやわ。

女装男、素早く身支度を整え去る。

田中 あの、すいません、頑張るんで、ほんと僕頑張るんで、だからもう一回、待って、ほんと僕頑張るんで、

暗闇に取り残される。ダブルステップ田中の呻き、訳の分からない悲しさ、悔しさ。

田中 もう、ああ、あああああ、

拳銃を啜えるダブルステップ田中。

田中 ああ、もう、ああ、ああああ、

引き金が引かれるという間際、ダブルステップ田中はスクリーンに『むなげの未亡人』というタイトルが映しだされたのに気がつく。女の嬌声やらなんやらがス

クリーンから響く、しかしもうなにも感じない。

・第十二話

関真琴と坂本和奏は居酒屋にいる。

真琴 なんて居酒屋、馬鹿か俺は、習慣の奴隷、恥ずかしい、年齢だけ無駄に重ねて苦境の友人を連れ出す場所を他に思いつかない、それでもこの雰囲気、安堵している自分がある、故郷に戻ったかのように、ってアホか、俺は以前とは違う、大丈夫自制できるはず、今こそ見せろよ重ねた年甲斐、

和奏 ほんとにいいんですか。

真琴 ええよ、俺に遠慮せず、

和奏 じゃあ、まあ、

飲酒する和奏と、ノンアルコールで押し通す真琴。

真琴 それで、

和奏 はい。

真琴 次の仕事のアてとかあるんか。

和奏 いや、まだ、全然。

真琴 そうか、そうやな。

和奏 はい。

真琴 まあ、なんとかなるよ。

和奏 だといいんですが。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員去る。

和奏 きつくないですか？

真琴 なにが？

和奏 昔は飲んでたんでしょ？

真琴 アル中は元通りやから、一滴だけで、一発。

和奏 ですよね、

真琴 あんな生活に戻りたいと思わへんし、俺は死ぬまでノン

アルコールでいくよ。

和奏 そうですか。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

和奏 関さんはどういう仕事してたんですか？

真琴 まあ、いろいろやったよ、自衛隊やって、警備員やって、

工場とか日雇いと演劇の道具の手伝いとかもあったな。

和奏 演劇？

真琴 知り合いの紹介で、日本舞踊やら小劇場っていうの？

和奏 僕演劇やってたんですよ。

真琴 そうなんか。

和奏 ええ、大学で。

真琴 あれってなんなん？

和奏 (笑う)。

真琴 作って、バラしてって、俺、自衛隊で施設科やったけど、

和奏 しせつかですか？

真琴 道作ったり橋作ったりっていう、まあ土建屋みたいな。

工兵ってやつ。

和奏 へええ。

真琴 でもな、それって全部訓練なんや。道作って橋架けて、作り終わったら撤収して元の更地にしてって、な、演劇みた

いやろ。

和奏 そう、なんですかね、

真琴 大事なんやけどな。災害で壊れた道、復旧したり。

和奏 震災のときも活躍してましたね。

真琴 ああいうことがないとな。

和奏 ははは。

真琴 P K O に行ったんよ。カンボジア。なんか、作ってバ

ラしてっていうんじゃないかとあとに残ることしたくなって思

って、道が、なかったからな。

和奏 道がない？

真琴 そう、森のなかでけものみちみたいな轍が一筋あって、

絶対そこを通れって言われるねん。その周りは地雷があるか

らって。

和奏 地雷とかほんとにあるんですね。

真琴 現地の少年がな、拳銃でけものみちから外の地面を撃つ

んや。なにかなってると思ったら「ほらあったでしょ」ってホッ

トキーキみたいな地雷を見せて。いろんな国から来た人が集

まってけものみちを人の道に作り変えてた。「人道支援」とは

よく言ったもんですよ。

和奏 なるほど。

真琴 あの道は、

和奏 え？

真琴 死ぬまでに見に行きたいって思ってたけど。

和奏 行けますよ。

真琴 そうかなあ。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

・第十三話

田中 どこをどう歩いたか覚えていない。闇雲に歩いて気がつけば大通りで、マクドナルド、ローソン、看板がいつもの町だと告げている。スターボックスが見える。あの気持ちが悪いい緑色の看板が輝いていて、店内にはたくさんの人がいて、僕の手は、汗か、よくわからないかんじでベタベタしていて、ジーンズの尻で何度も拭うが取れなくて、スターボックスはメルヴィル『白鯨』の登場人物、『一等航海士のスターボックス』から取られたというが『白鯨』にはスターボックスがコーヒーと特に縁があるという描写はないらしい。外から見ると店内は、幸せそうであたたかみがあつて、看板のセイレーンは笑つていて、

スターボックスの店員 いらっしやいませ、こんばんは。

入店するダブルステップ田中。ホットコーヒーを頼み適当な席に落ち着く。疲労が酷いし体も冷えている。一口飲んでホッと息を吐く。さまざまな客。近くのテーブルでは女子高生が参考書を広げて、一心不乱に消しゴムをかけている。勢いがすぎすぎる。久々にたくさん歩いて足がだるい。靴を脱いで足をぶらぶらさせていると、

スターボックスの店員 お客さま、

田中 え、

スターボックスの店員 飲食店ですので、

田中 はあ、

スターボックスの店員 はい。

田中 え、

スターボックスの店員 飲食店ですので。

田中 なんですか。

スターボックスの店員 飲食店ですので靴は、

田中 靴。

スターボックスの店員 飲食店ですので靴はお脱ぎに、

田中 ああ。

スターボックスの店員 はい。

田中 すいません。

靴を履くダブルステップ田中。店員が去って、

田中 ちゃんと最後まで話せよ。

女子高生の机では消しカスの山ができていて。山はどんどん高くなっていく。

田中 すいません、

スターボックスの店員 はい（スマイル）。

田中 あれは、

スターボックスの店員 あれ、

田中 はい、あそこの、

スターボックスの店員 あそこ、

田中 ほら、あの、勉強してるのか消しゴムを無駄に削ってる

のかわからない女子高生、

スターボックスの店員 はあ、

田中 あれはいいの。

スターボックスの店員 お客さま、私どもは全てのお客さまに

上質なくつろぎの時間をご提供できるように努力しております

して、

田中 え、だって、テーブルの下で靴を脱ぐのとテーブルの上に消しカスを（女子高生を見て）爆散させるのとどっちが不衛生だよ。

スターボックスの店員 当店は飲食店ですので、

田中 うん、だから、

女子高生はカップラーメンを食べ始める。

田中 おいおいあれは、

スターボックスの店員 飲食店ですので、

するとマックブックとかを広げていたおしゃれピーポ
ーたちが肉や野菜を焼き始める。

田中 え、ちよつとちよつとなにこれなにこれ、

スターボックスの店員 飲食店ですので、

田中 待って待って、

店内は焼き肉パーティーだ。

スターボックスの店員 たーんとお食べ。

スターボックスの店員が次から次へと焼けた肉をダブル
ルステップ田中のコーヒーの中へ入れていく。

田中 待って、やめて、

スターボックスの店員 遠慮なさらず、

田中 遠慮とかちやう、

スターボックスの店員 ライスお待ち。

ライスと言って供されたのは女子高生が作り出した山
のような消しゴムのカスである。

田中 おいこれ、

スターボックスの店員 さあさあどうぞ。

田中 いや、だから、

スターボックスの店員 飲食店ですので、

気付くと店中の人間がダブルステップ田中を見ている。
ダブルステップ田中は耐え切れず席を立つ。出入口
間際で、

スターボックスの店員 お客さま。

田中（苛立っている）なに、

スターボックスの店員 おすみになられたカップはどうぞこ
らへ、

田中 え、

スターボックスの店員 どうぞこちらへ。

田中 いや、でももう出口だし、

スターボックスの店員 どうぞどうぞ。

田中 いや、だから（テーブルまでの距離）、

スターボックスの店員 遠慮なさらず（スマイル）、

ダブルステップ田中は長い距離を歩いてテーブルに戻
りカップを取り、消しカスだらけの茶碗を取り、また
長い距離を戻ってカップと茶碗を店員に渡そうとして、

スターボックスの店員 そちらへ。

示されたのは回収棚。

田中 お前殺すぞ。

・第十四話

居酒屋。

和奏 哲学ってのは死ぬことの練習だ、みたいなことをソクラテスは言ったらしいんですけど、

真琴 ソクラテス？

和奏 僕は人を殺す代わりに演劇に取り組んでいた、みたいなのがあって、

真琴 どういうことや。

和奏 そんなんやから周りに嫌われて続けられなくなったんですけど、だからいろんな不満やわだかまりみたいなのを舞台で発散するだけでそれが表現になっていなくて、それどころか一緒に作品に関わっている人を殺してしまっただっていうか、

真琴 うん？

和奏 人の道。人の道ってなんでしようね。

真琴 なんやろな。まあでもそんなにしっかりしたものではないなって。

和奏 そうか。

真琴 前はさ、同性愛とか、キリスト教圏では完全に外道やったわけやん。俺なんかもう頭かたいから「同性愛者です」とか面と向かって言われると戸惑うとは思うけど。

和奏 正直僕も平常心でいられるかというところ。どう思えばいいんですかね、言うて大事なことやないですか、天気の話をするようにはいきませんよ、朝起きて雨降ってるだけで「あーあー」って思うのにその人の大事な一部でしょ、

真琴 まああれちゃう、血液型ぐらいのかんじで聞いたらええんちゃう？

和奏 それだってあれやこれや言う人いますよ。

真琴 じゃあ出身地とか、

和奏 それだって言うやつは「お里が知れる」とか言いますよ。

真琴 誕生日か？

和奏 星座占いでランク付けします。

真琴 どのせいっちゅうねん、

和奏 結局これが人の道なんですかね。

真琴 まあでも、踏み外す道があるってのはまだマシなんや、って思ったな、カンボジアは。けものみちを踏み外すと地雷で、みんななんとかその細い道から落ちないようにしていて。

そりやあ国自体が人の道を外れて虐殺やらなんやら、けもの国と言えたんかもしれん。俺ら行ったん戦争終わってからやけど、地獄やこれはって、まあ、だから、しようもないことしか言えんけど、「道を踏み外す」とか言ってられるこの国はまだええんやとね、思うしか、ないというか。

和奏 そうですね。でも、なんでこんなに苦しいんですかね。

真琴 大丈夫やって、点字ブロックもつけられて、駅にはエレベーターがついて、だから、いいようになるって、誰もがみんなスイスイ通れる人の道。

和奏 そうですかね。

真琴 大丈夫やって。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

和奏 行きましようよ。

真琴 え？

和奏 カンボジア。

真琴 あんたど？

和奏 見に行きましよう、動画にしましよう、で、ユーチュー

ブに上げましよう、

真琴 いいかもな。

和奏 でしょ。

真琴 しかし腰がな。

気づくと、和奏が凍りついたようにどこかを見ている。

真琴 どうした？

和奏 ちよつとすいません。

真琴 なんや。

和奏が店を飛び出す。

店員が来る。

真琴 コーラ。

・第十五話

ダブルステップ田中は関真琴の部屋にいる。疲れ果てている。部屋にあった酒を飲み始める。やがてテレビデオの電源を入れ、映画を見始める。

田中 『ホーム・アローン 一九九四年一〇月八日放送』(やがて見終わる)『スピード』(やがて見終わる)『沈黙の戦艦』(やがて見終わる)『エヴァンゲリオン新劇場版・破』、画面サイズが違う、『二〇一一年八月二六日放送』、レターボックスサイズ、誰からの手紙が届くんや、ピザのチラシ、水回りのトラブル、不動産、僕がほしいものはなんもない、(やがて

見終わる)『地獄の黙示録 一九八二年(読み上げを中断する)』、

ダブルステップ田中は金属バットで部屋のビデオを粉々にし始める。ひとしきり破壊をして、

田中 何を受け取れと、何を感じると、何を、どうしろと、わからん、わからん、

ぐずぐず崩れ始めるダブルステップ田中。眠ったのか。やがて真つ白な使い捨て化学防護服を着た彼女が現れる。顔にはマスク、土足のまま部屋に入り、眠り込んでいるダブルステップ田中の頭を蹴る。

彼女 (蹴りながら)おい、おい、(起きないので強く蹴る)おい、

目を醒ます。彼女を見て、

田中 うわ、え、誰、なに、
彼女 (顔を見せて)私や、あほ。(マスクを取ったので)くさ

っ、

田中 なんで、

彼女 風邪ひくで。

田中 え、

彼女 こんなところで寝て。寒いでここ。

田中 どうしたん。

彼女 手伝おかな、思って。

田中 え、

彼女 この部屋、片付けなあかんのやろ。

田中 そやけど。

彼女 なに、かたつばしからゴミ袋に入れたらええの。
田中 うん。

作業を始める二人。しばらくして、

田中 その服は、
彼女 なんか言うた、
田中 その服どうしたん。
彼女 ああ、買ってん。
田中 そうか。

作業を再開する二人。しばらくして、

田中 買ったって、
彼女 なんか言うた？
田中 いや、
彼女 「なんか言うた？」に「いや」で返すってことはなんか言うたんやろ、
田中 え、なんで、
彼女 だってなんも言うてへんのに急に「なんか言うた？」って聞かれたら「いや」って返答にはならんやろ。
田中 え、そう？
彼女 なに言うたん。
田中 いや、それ、
彼女 どれ、
田中 その服、どこで買ったんかなって。
彼女 ああ、近所の商店街。
田中 そうなん。
彼女 うん。地震のとき売ってたで、ママさんブティックで。
田中 あそう。

作業を再開する二人。しばらくして、

田中 ありがとう。
彼女 なんか言うた、
田中 いや、
彼女 これ（防護服）、がさがさ言ってよう聞こえん。

作業を続ける二人。

彼女は部屋に転がっている金属バットを見つける。
それを拾い、作業をしているダブルステップ田中の背後に忍び寄る。
それは彼の背中に振り下ろされる。
突然の衝撃に悶絶するダブルステップ田中。

田中 え、なに、
彼女 くそ、

第二撃はかわす。

田中 え、なんなん、待って、どうしたん、
彼女 どうしたもこうしたもあるか、

更に金属バットが振り回される。

田中 落ち着けや。
彼女 逃げんなや、これであんたの頭かち割ったる。そうして欲しいんやろ、それが望みなんやろ、
田中 ちよっと待って、
彼女 あんた、もう無理やで、死に。そのほうがいい、あんたみたいなん死んだほうがいい、
田中 ちよっと待ってや、

逃げ回りながらやがて壁際に追いつめられる。

彼女 (迫真) やー。
田中 (迫真) うわー。

しかし、そのバットは振り下ろされない。

彼女 (迫真) やー。
田中 (迫真) うわー。

しかし、そのバットは振り下ろされない。

彼女 (迫真) うるああああ、
田中 (異変を感じながら) う、うわあ？

しかしそのバットは振り下ろされない。振り下ろさな
いまま、彼女は震えて泣いている。

彼女 なんでなん、なんで私がこんなことしなあかんの、もう、
わからへん、なんでこんなことになってしまったん。

バットが地面に落ちる。沈黙。やがて、

田中 やれや。
彼女 え、

田中 さっさとやれや、かかってこいや、何ビビってんねん、
はよやれや、殺せ、殺せ、殺せー、
彼女 嫌や、できへん、

田中 (身の危険がないことがわかって完全に調子に乗る) し
よーもないお前、ほんましょーもないわ、なんやねんお前、

ほんまカスやな、ほんまクズやな、この糞女、お前みたいな
ん生きてたつてなんの意味もないぞ、なんでお前みたいな奴
が生きることになんの疑問もたんねん、ほんま終わつとる
わ、どいつもこいつも、やれやさっさと、殺せや、殺してく
れ、頼むわ、殺せ、殺せ、

彼女は泣いている。ダブルステップ田中は勝ち誇って
いる。

田中 しょーもな。

ダブルステップ田中はサッシを開け、ベランダに出る。

田中 おい、
彼女 え、

田中 (面と向かって言えるわけもなく) ごめんな。

彼女 なにが、
田中 (突如攻撃的に) でもお前のせいやからな。お前のせい
で俺は今から死ぬんやからな、絶対呪ってやる、絶対に許さ
へん、

彼女 ちよつと待って、

田中 お前のせいや。

ダブルステップ田中はベランダから飛び降りる。

・第十六話

店を出た和奏は白ウサギに追いつく。

和奏 ちよつと待って。

白ウサギは驚く。

和奏 すいませんでした。

白ウサギは戸惑っている。

和奏 あのととき、僕はあなたに、ちゃんと声をかけるべきやっ
たってやっぱり思います。でもしようもない、『不思議の国の
アリス』みたいなやなとか思っ、結局引き止めることもつい
ていくこともしなかった。穴に落ちるんが怖かったんです。
僕はアリスみたいに少女じゃない。僕はもう、穴に落ちたら
這い上がる元気もない、なんとかこのぬるま湯の栓が抜けな
いように祈ってただけの人間で、きつとあの人もそれわ
かってたんです。一緒に穴に落ちる気もなく追いかける気も
ないって、だから、ふられて当たり前前っていうか、

白ウサギ ああ、
和奏 はい。

白ウサギ いったい何を言ってるんですか？

会釈して去る白ウサギ。

・第十七話

居酒屋には取り残された真琴。

真琴 戻ってこんな。若い人は大変や。まだ先が長いんや。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴 もう残りは消化試合。引退を待つ身は楽や。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴 まあ、いろいろあるさ。若いんだから。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴 大丈夫や。大丈夫。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴 遅いな。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴 カンボジア、

誰も来ない。

真琴 思えば幸せやった。人を殺すことも人に殺されることもなかった。ほんまに幸運や。それだけで幸福や。

店員が来る。

真琴 コーラ。

店員が去る。

真琴はたった一人で、和奏とともに行っていたおどけたポーズをする。

真琴 死にたくない、

おどけたポーズ。

真琴 死にたくない、

コーラが尽きる。

真琴 すいません、

店員を呼ぼうとする。

しかし誰も捕まらない。

真琴 おかあさん、

喉が渴く。

真琴 死にたくないよ。

息が詰まりそうだ。

真琴 おかあさん、

店員が来る。

店員 はい。

真琴 え、

店員 呼びました？

真琴 いや、え、いえ、

店員 そうですか。

店員 腕時計を確認する店員。

真琴 ラストオーダーのお時間です。

真琴 焼酎。

真琴 よろこんで。

真琴 祝祭が始まる。

真琴 真琴が酒を呑む。

・第十八話

路上に倒れているダブルステップ田中。それを見下ろす白い化学防護服の彼女。

彼女 なんとというか、
田中 うううう、
彼女 三階から飛び降りてどうにかなると思ったん？
田中 痛い。
彼女 なにがしたいんあんだ。
田中 痛くなくなりたい。
彼女 あほちやう。
田中 痛くなくなつて、心のそこから笑いたい。
彼女 はあ？
田中 いつから笑えんようになったんやろ、いつからなんも楽しくなくなつたんやろ、いつからなににするにも根拠や理由があるようになったんやろ。「サッカバカナ」なんてもんも結局日々更新される wikipedia の言葉で誰が書いてるかわからんし出典もあやふややし嘘かもしらんし。でもさ、そんなんで根拠にして生きなあかん。なんもなしで生きていけへん、怖い、なにもかも怖い、

彼女、ダブルステップ田中を思い切り蹴る。

田中 いたい痛い、
彼女 笑え(蹴る)。
田中 痛いつて、
彼女 笑えや(蹴る)。
田中 (笑いながら)痛いへへへ(とかなんとか)、
彼女 わたし怖い？
田中 (迷つて)うん。

彼女、ダブルステップ田中を渾身の力で蹴る。

田中 いたい痛い、
彼女 笑え。
田中 (笑いながら)いたい痛い、
彼女 なんかさ、
田中 はい。
彼女 「まんじゅうこわい」みたいじゃない？
田中 え、ああ。
彼女 こんちくしょうてめえはいつたいなにが怖いんだ(蹴る)
田中 いたい、今は、僕の彼女が怖い。

・第十九話

したたかに酔い帰宅した真琴。

真琴 うえー、
などと酔つ払っている。
映像カメラを触る。

真琴 これでええんかな、このランプが点いているから、あー、
こんには、こんばんは？ユーチューバーのアル中じじいで
いす。あー、なに喋る、誰に、なにを？つってなんもやれん
のやけど、

酒をおおる真琴。

真琴 無力。

一人でおどけたポーズ。
酒をあおる真琴。

真琴 なんつーか、ね、なんでこんなしょうもない人間になっ
たんですかね、つって、冗談よね、冗談、おもちゃになりたい
な、おもちゃが嫌やったんやけどな、おもちゃとしての価値も
ないなんてなったら、おもちゃくらいにはなりたくない、

酒をあおる真琴。

真琴 笑ってよー、笑ってくださいよー、しょうもない俺、面
白いでしょ、面白いよね、面白くないよな、みんな面白く生
きるために努力してるよな、糞、呑みまーす。

真琴はどんどん酒を呑む。

その姿を、和奏はただ見ている。

和奏 夜が明ける頃一番に騒ぎ出すのはカラスで、夕暮れ時の
イメージがあったのは懐かしい歌のせいだったのか。ぼくは、
彼が亡くなる前に撮ったのだろう映像を眺めていた。傍らで
は、彼は既に腐臭を放ち始めていた。

真琴 大丈夫や、言うて、そんな言葉しかない、それでもあ
いもみんなも、なんもかんもうまくいって世界が幸福に包まれ
たらええっていう気持ちは冗談なんかやないんや、大丈夫やっ
て言うてやりたいんや、酒のせいとかそんなんやなくて、でも
朝が来たら、また太陽を恨みがましく見ている俺がいるんやろ
う、

真琴は酒を呑む。

真琴 朝が来なければいい、そしたら俺はずっとみんなの幸せ
を祈っていられる。誰彼構わず幸せに、そんなお伽噺を夢見て
いられる、

和奏 ぼくは彼のために作ったアカウントのことを思った。名
前だけ残されて、見捨てられ放置されたアカウントはこの世
にどれだけあるのだろう、ぼくは死んでいる彼にカメラを向
けて、（呼びかけ）もつとできますよなにかおもしろいこと、
彼は、腐っていくだけでなにもなくて、（呼びかけ）これか
らですよこれからじゃないですか、彼は、腐っていくだけで
なにもなくて、（呼びかけ）見に行きましようよカンボジア、
作った道、人の道、彼は、腐っていくだけでなにもなくて、
ぼくは、その姿を記録して、彼の身体が別の生き物に覆われ
るまで眺めて記録して、

和奏の元にスターボックスの店員がやって来る。

スターボックスの店員 落とし物です。

和奏 どこやここ、

スターボックスの店員は銃を押し付けて去る。

和奏 なんだこりや。

和奏は戯れに引き金を引いてみる。

おわり